

助け合えるのであれば

さいたま市立田島中学校3年 谷畑 澄和

僕は消費税が嫌いだ。商品そのものの価格に税金が上乗せされて金額が変わる。それも、八から十パーセントという、高い割合だ。

例えば、僕が勉強するために必要不可欠なキャンパスノートを買いに行く。A罫五冊入、東大生も使用すると売りの大人気ノートだ。僕にとって、お菓子をかうのとは訳が違う、お小遣いから出したこの五百円は、未来の自分への投資だ。だが、税抜四九六円で売っており、大事に握りしめていた五百円玉では買えなかった。税込五四五円。家族が援助してくれて購入することができたが、消費税分の、たった四十九円で残念な気持ちにさせられるのだ。税金とは何だ。だから僕は消費税が嫌いだ。

令和元年十月十三日、僕の住む街が水浸しになった。

この日は大型台風十九号がもたらした大雨で避難勧告が出されていた。僕は栃木にある父の実家にいて難を逃れたが、翌日帰ってみると、まるで湖の中に家が建っているかのように街は水浸しで、僕の家はひざの高さまで水没していた。

僕の住むさいたま市桜区は、荒川や支流に囲まれた地域だ。土地も低く水はけが良くないため、ハザードマップで浸水想定区域となっている。そうと知りながらも、「まさか」の出来事にただぼう然と立ちつくすことしかできなかった。近所の人がお互いの被害状況を報告し合う。みんな見たことのない悲しい表情だ。建て替えたばかりの家、水浸しで車が動かないなど、一夜にしてみんなの笑顔が奪われてしまったのだ。とても悲しかった。

あの日から五年。街は笑顔に戻りつつある。調べると、行政は今回の台風被災者に様々な支援を行っている。身体に負傷、障害が出た方に見舞金等、住宅に被害があった方へ生活再建のための給付や融資、子供の養育、就学に関する補助も行っている。教科書や学用品などが使用出来なくなった場合、新しく支給してもらえるのはとても良い事だと思う。

さらに、また同じように水害被害が発生しないために、雨水を一時的に貯めておける大きな貯留浸透施設を荒川水系に三十箇所設置されるという。おかげで水が街にあふれ出す心配がなくなり安心して生活が出来るだろう。

このようなたくさんの支援や工事に使われる費用はどのくらいかかるのだろう。きっと想像も出来ないくらい大がかりなものだ。

では、その費用はどこから出ているのか。その財源の中心は、そうだ、「税金」だ。そして税金の一つに「消費税」がある。税金が僕たちを守ってくれているんだ。あの日、五四五円で購入したノートは、間違いなく未来の自分達への投資だったのだ。

税金によってより良い社会を作り、みんなが助け合える日本になるのであれば、僕はもう、「消費税が嫌い」なんて、恥ずかしくて言えない。